つなぐ・ひろがる しずおかの 道

《 東海道新時代の幕開け 》

新東名高速道路（御殿場 JCT～三ヶ日 JCT）
開通後１年間の交通状況および整備効果

交通状況について

1. 平均交通量の変化 ……01
2. 平均IC(ｲﾝﾀｰﾁｪﾝｼﾞ)利用交通量の変化 ……01
3. 県内の主要断面における交通量（新東名・東名・国道）の変化 ……02
4. 渋滞状況の変化 ……03
5. 交通事故の変化 ……03
6. 旅行速度と所要時間に関する定時性の変化 ……04
7. 新東名開通による高速道路の交通動向の変化 ……05
8. 大都市圏間の長距離交通の変化 ……06
9. 道路利用者の満足度 ……07
10. 企業の満足度の向上 ……08

整備効果について

11. 東名集中工事期間中にダブルネットワーク効果が発現 ……09
12. 東名通行止め時におけるダブルネットワーク機能 ……10
13. 休憩施設における防災救急機能の発揮（ヘリポートの活用）……10
14. 市街地における交通の流れの変化（静岡市）……11
15. 生活道路の安全性向上（浜松市）……12
16. 企業活動の変化 ……13
17. 医療搬送における所要時間の短縮 ……14
18. ICアクセス圏域の拡大 ……14
19. 商業施設(ネオパーサ)とスマートICの利用状況……15
20. 観光振興への寄与 ……16
21. 地域経済の活性化に向けた動き ……17

高速ネットワークの整備

22. 新東名とネットワークを形成する三遠南信自動車道の整備 ……17
23. 新東名とネットワークを形成する伊豆縦貫自動車道の整備 ……18
24. 今後の開通予定 ……18

新東名（静岡県）インパクト調整会議

国土交通省中部地方整備局

ＮＥＸＣＯ中日本東京支社

静　岡　県

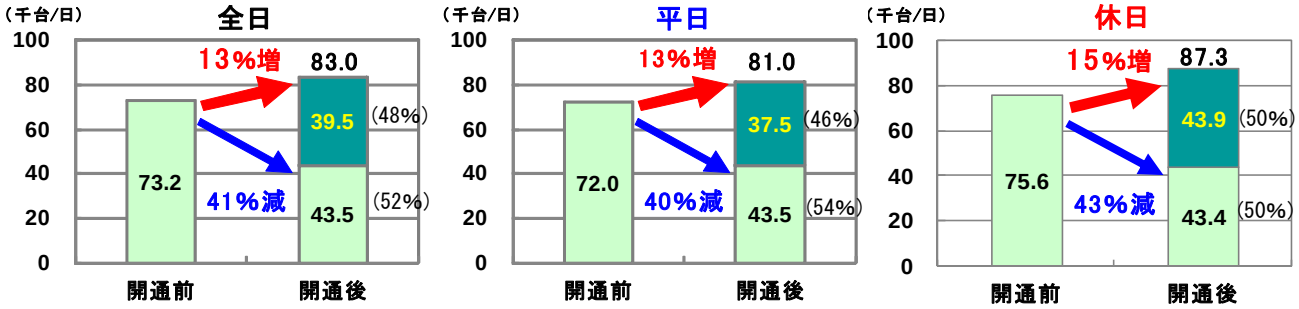
静　岡　市

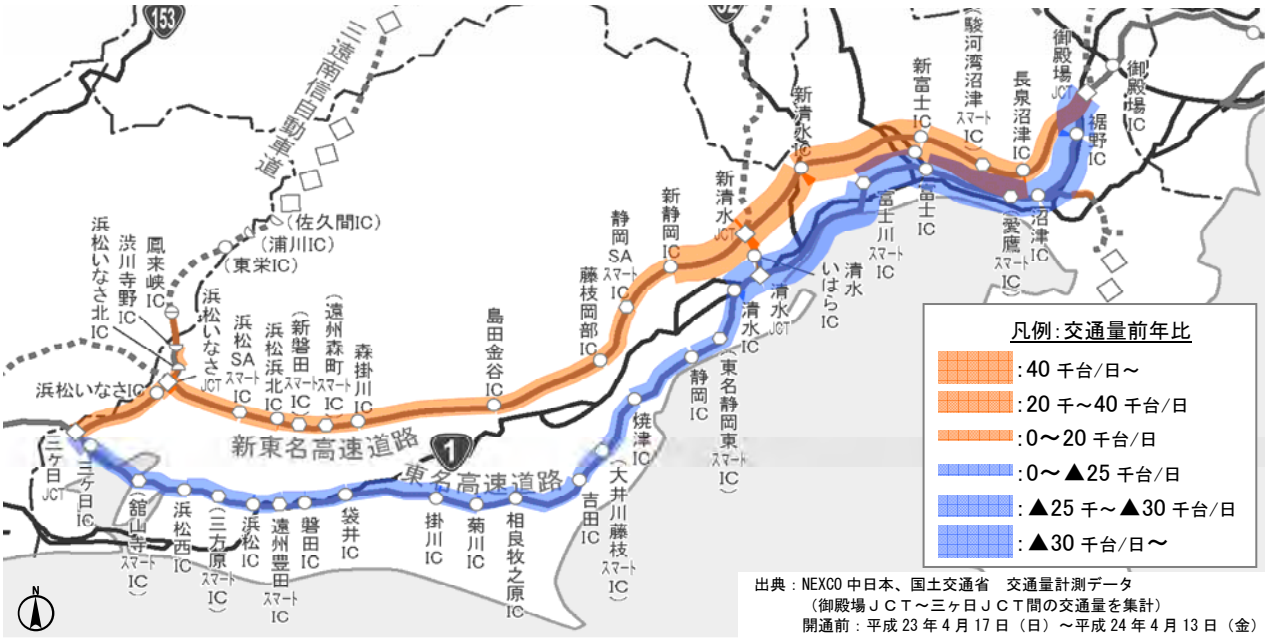
浜　松　市

1．平均交通量の変化

- 新東名の平均交通量は、全日４０千台/日、平日３８千台/日、休日４４千台/日
- 静岡県内の新東名と東名の交通量合計は、全日１３％、平日１３％、休日１５％とそれぞれ増加

■平均交通量



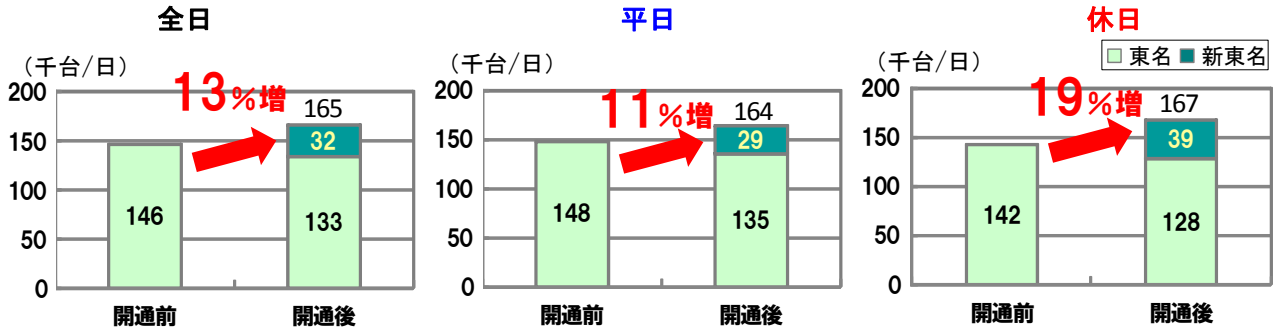


出典：NEXCO 中日本、国土交通省　交通量計測データ
（御殿場ＪＣＴ～三ヶ日ＪＣＴ間の交通量を集計）
開通前：平成 23 年 4 月 17 日（日）～平成 24 年 4 月 13 日（金）
開通後：平成 24 年 4 月 15 日（日）～平成 25 年 4 月 12 日（金）

2．平均ＩＣ（インターチェンジ）利用交通量の変化

- 新東名の平均ＩＣ（インターチェンジ）利用交通量は、全日３２千台/日、平日２９千台/日、休日３９千台/日
- 静岡県内の新東名と東名の平均ＩＣ利用交通量は、全日１３％、平日１１％、休日１９％とそれぞれ増加（行動圏の拡大や来県者の増加）

■平均ＩＣ利用交通量

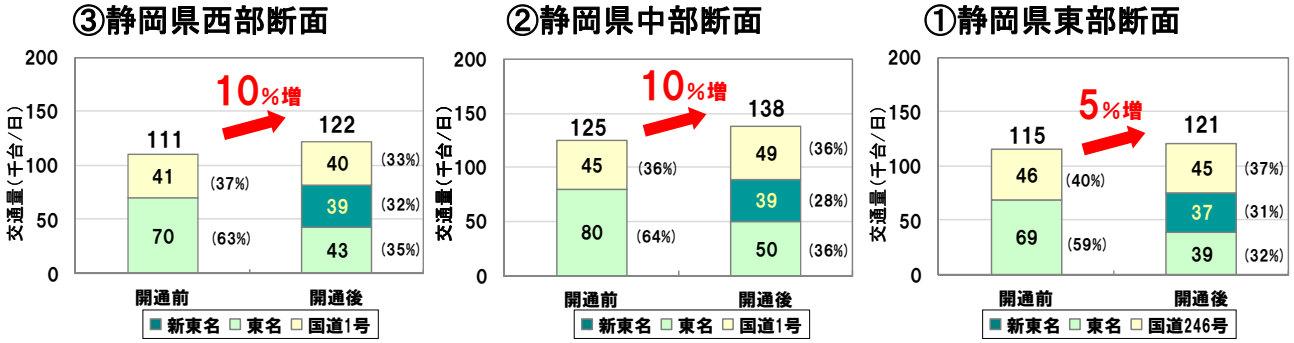


出典：NEXCO 中日本　交通量計測データ
（料金所を通過した台数の日あたり平均値（１回の利用につき１台カウント：出口交通量））
開通前：平成 23 年 4 月 17 日（日）～平成 24 年 4 月 13 日（金）
開通後：平成 24 年 4 月 15 日（日）～平成 25 年 4 月 12 日（金）

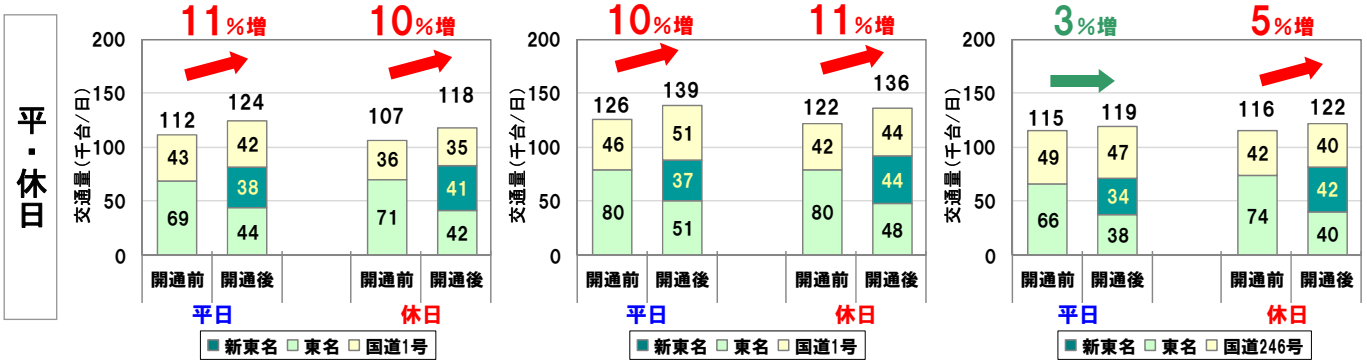
3．県内の主要断面における交通量（新東名・東名・国道）の変化

- 静岡県内の主要断面における新東名、東名、国道の断面交通量は、全日最大１０％、平日最大１１％、休日最大１１％とそれぞれ増加
- 並行する国道は、新東名の開通に合わせ４車線化した国道１号静清バイパスの静岡県中部断面において増加傾向がみられるが、全体的に大きな変化はみられない

全日



平・休日

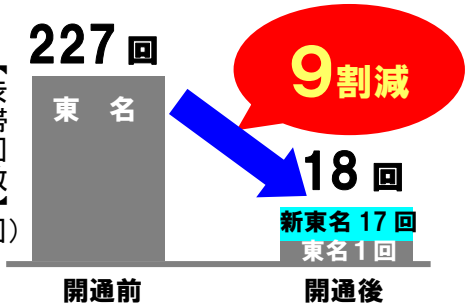


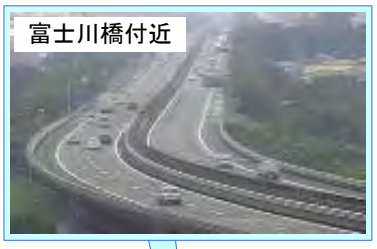
出典：中日本高速道路㈱、国土交通省　交通量計測データ
平日開通前：平成 23 年 4 月 17 日（日）～平成 24 年 4 月 13 日（金）の平日
平日開通後：平成 24 年 4 月 15 日（日）～平成 25 年 4 月 12 日（金）の平日
休日開通前：平成 23 年 4 月 17 日（日）～平成 24 年 4 月 13 日（金）の休日（土曜・日曜・祝日）
休日開通後：平成 24 年 4 月 15 日（日）～平成 25 年 4 月 12 日（金）の休日（土曜・日曜・祝日）

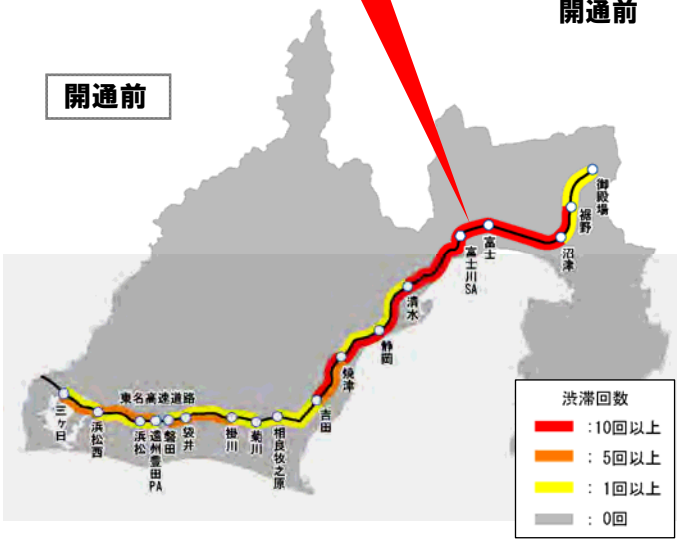
4．渋滞状況の変化

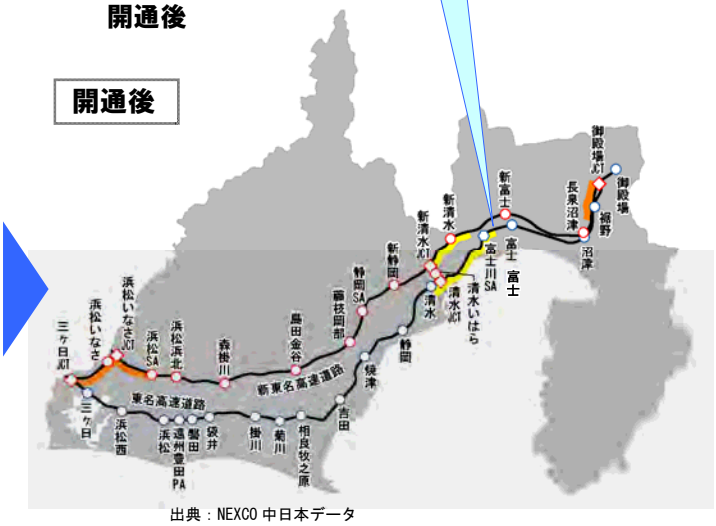
- 開通後１年間に静岡県内で発生した１０km以上の渋滞は１８回
- 昨年同時期に東名の静岡県内で発生していた渋滞回数と比較すると、約９割減少

■渋滞状況の変化







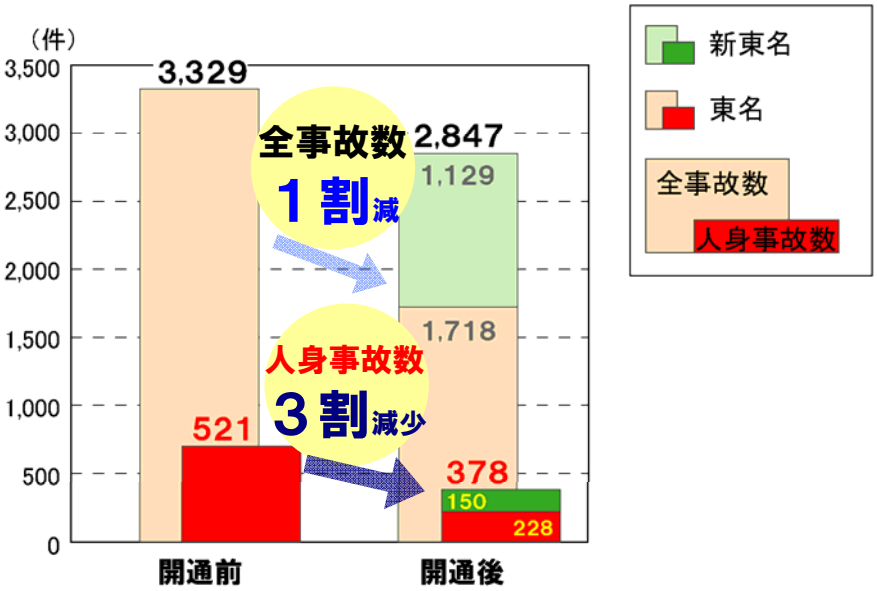


出典：NEXCO 中日本データ
交通集中に伴う 10km 以上の渋滞回数
開通前：平成 23 年 4 月 17 日（日）～平成 24 年 4 月 13 日（金）
開通後：平成 24 年 4 月 15 日（日）～平成 25 年 4 月 12 日（金）

5．交通事故の変化

- 新東名と東名における人身事故件数は、昨年同時期の東名の件数より約３割減少

■交通事故の変化

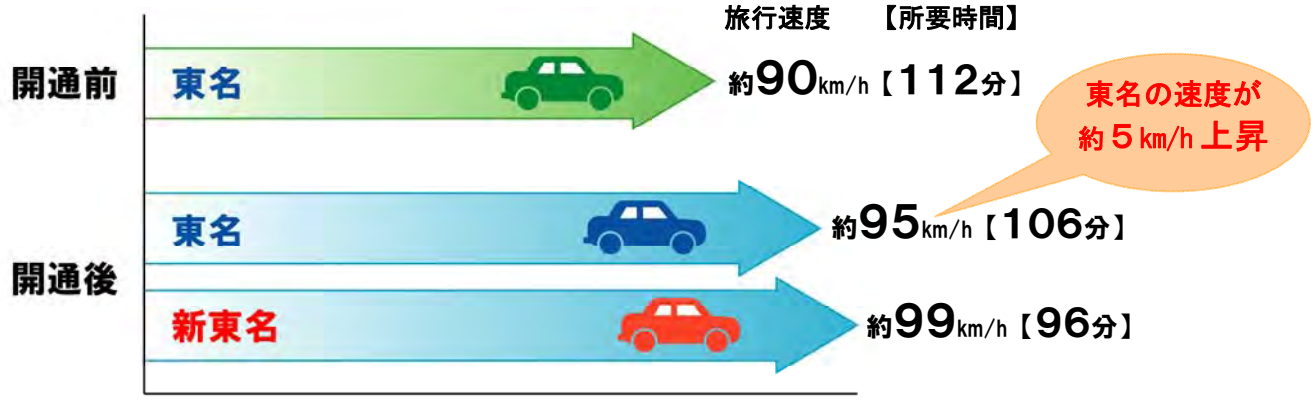


出典：静岡県警記者発表
開通前：平成 23 年 4 月 14 日（木）～平成 24 年 4 月 13 日（金）
開通後：平成 24 年 4 月 14 日（土）～平成 25 年 4 月 13 日（土）

６．旅行速度と所要時間に関する定時性の変化

- 東名の平均旅行速度は、新東名開通後、約95km/h（５km/h上昇）、新東名は99km/h
- 東名の所要時間のばらつき減少（２３分→１２分）、定時性が大幅に向上

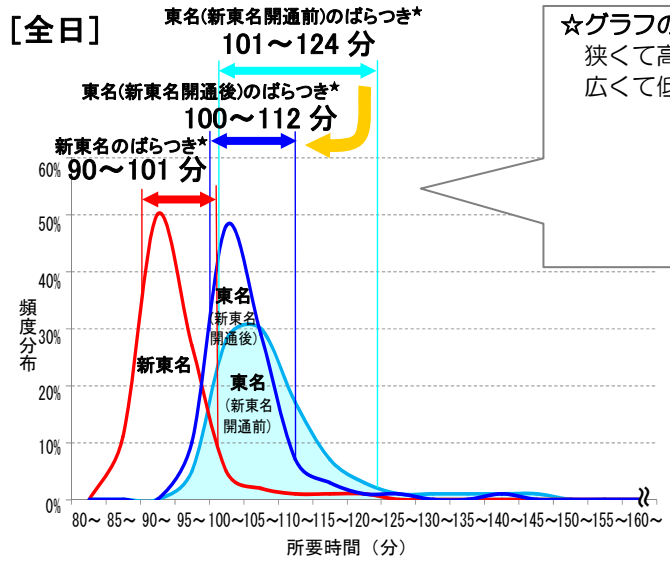
■旅行速度【所要時間】の変化



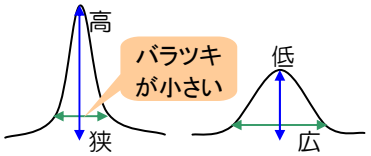
出典：民間プローブデータを用いた集計結果
開通前：平成 23 年 4 月 17 日（日）～平成 24 年 1 月 31 日（火）
開通後：平成 24 年 4 月 15 日（日）～平成 25 年 1 月 31 日（木）
旅行速度は、御殿場 JCT～三ヶ日 JCT 間※の各区間の旅行速度の平均値※東名の 80km/h 規制区間及び連絡路は対象としない。
所要時間は、新東名・東名とも御殿場 JCT～三ヶ日 JCT 間の時間

■御殿場ＪＣＴ～三ヶ日ＪＣＴ間の所要時間の分布

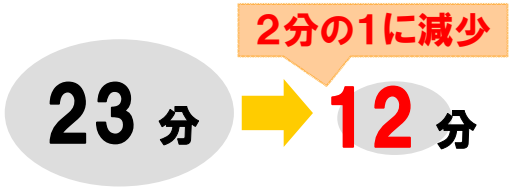
［全日］



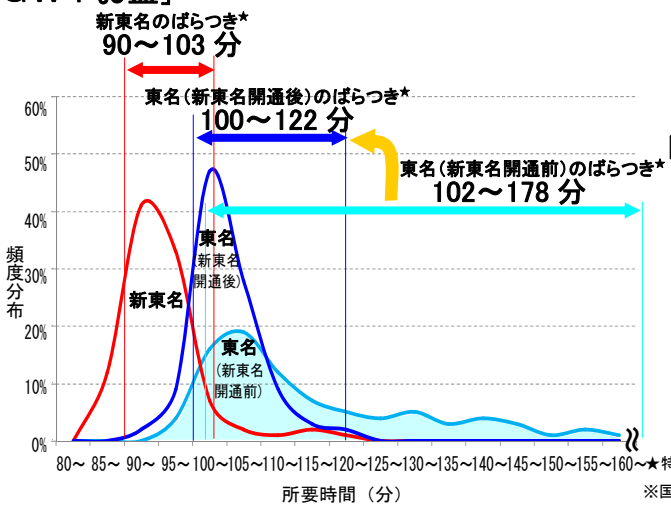
☆グラフの見方：グラフの幅と高さ☆
狭くて高い＝ばらつきが小さい→いつも同じ到着時間
広くて低い＝ばらつきが大きい→到着時間が不確定



■開通後、東名の所要時間のばらつきが２分の１に減少



［GW＋お盆］



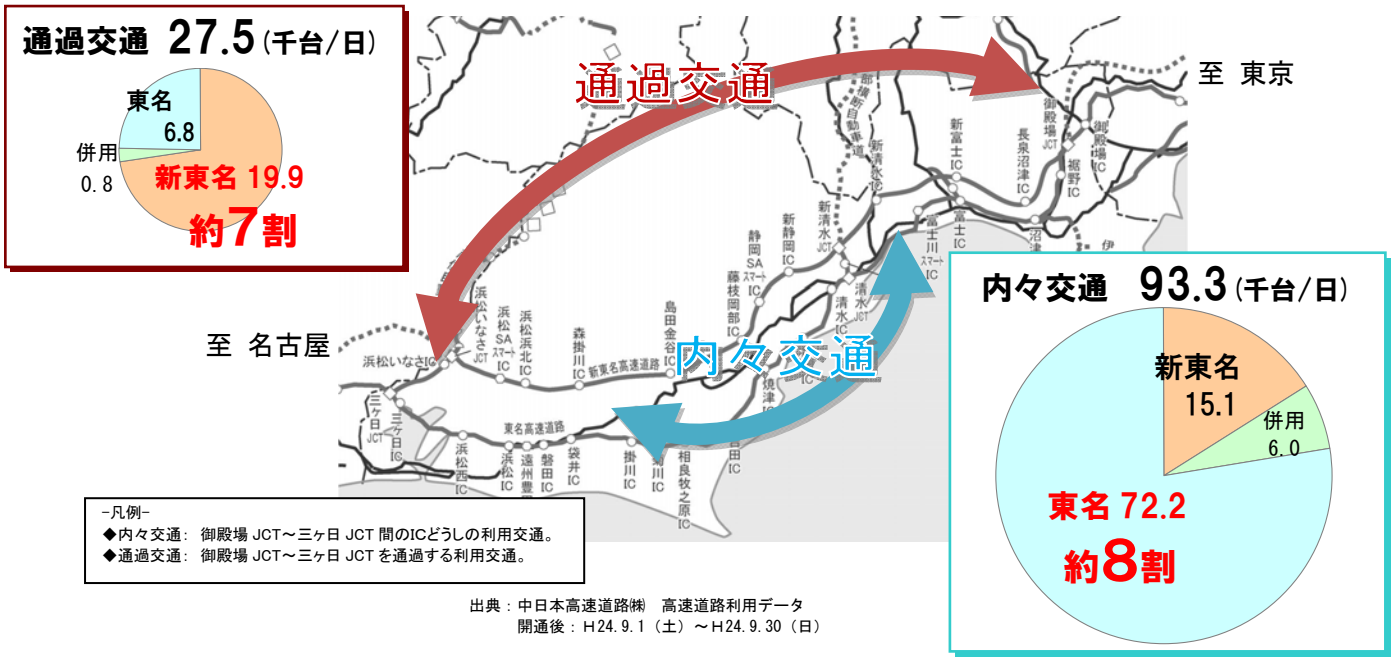
■開通後、東名のＧＷ・お盆の所要時間のばらつきが３分の１に減少

★特異値（所要時間の上位 10%、下位 10%）を除いた所要時間のばらつき
※国土交通省 中部地方整備局･国土技術政策総合研究所による民間プローブデータを用いた集計結果
開通前：平成 23 年 4 月 17 日（日）～平成 24 年 1 月 31 日（火）／平成 23 年ＧＷ お盆
開通後：平成 24 年 4 月 15 日（日）～平成 25 年 1 月 31 日（木）／平成 24 年ＧＷ お盆

7．新東名開通による高速道路の交通動向の変化

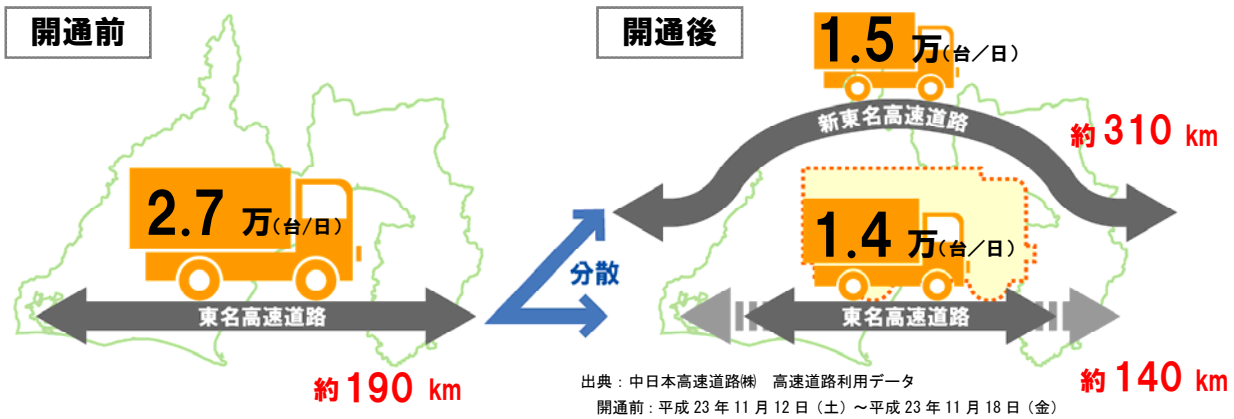
- 静岡県内を通過する交通の約７割は新東名を利用、県内移動の約８割は東名を利用、新東名と東名の役割分担が明確化
- 新東名の大型車の平均移動距離は約３１０kmである一方、東名は約１９０kmから１４０kmに減少し、東名の移動距離の長い通過交通が新東名に転換
- 東名の大型車の平均交通量は、開通前に比べ減少（２．７万台／日→１．４万台／日）

■新東名と東名の役割分担の明確化



出典：中日本高速道路㈱　高速道路利用データ
開通後：H24.9.1（土）～H24.9.30（日）

■大型車平均交通量と平均移動距離の変化



出典：中日本高速道路㈱　高速道路利用データ
開通前：平成 23 年 11 月 12 日（土）～平成 23 年 11 月 18 日（金）
開通後：平成 24 年 11 月 3 日（土）～平成 24 年 11 月 9 日（金）

TOPICS　新東名と東名のＩＣ利用交通量 TOP３

新東名と東名のＩＣ利用交通量に関するTOP３を紹介します。

◆新東名“IC利用交通量”TOP3

順位	IC名	利用交通量（千台/日）
1位	新富士 IC	6.7
2位	長泉沼津 IC	5.6
3位	新静岡 IC	4.0

◆東名“IC利用交通量”減少量TOP3

順位	IC名	利用交通量（千台/日）
1位	富士 IC	▲4.1（12.8→8.7）
2位	沼津 IC	▲2.9（17.0→14.1）
3位	浜松 IC	▲1.5（13.5→12.0）

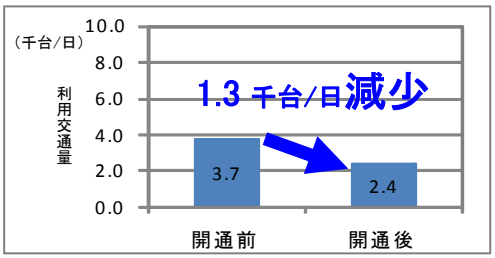
出典：NEXCO 中日本　交通量計測データ　（料金所を通過した台数の日あたり平均値（１回の利用につき１台カウント：出口交通量））
開通前：平成 23 年 4 月 17 日（日）～平成 24 年 4 月 13 日（金）開通後：平成 24 年 4 月 15 日（日）～平成 25 年 4 月 12 日（金）

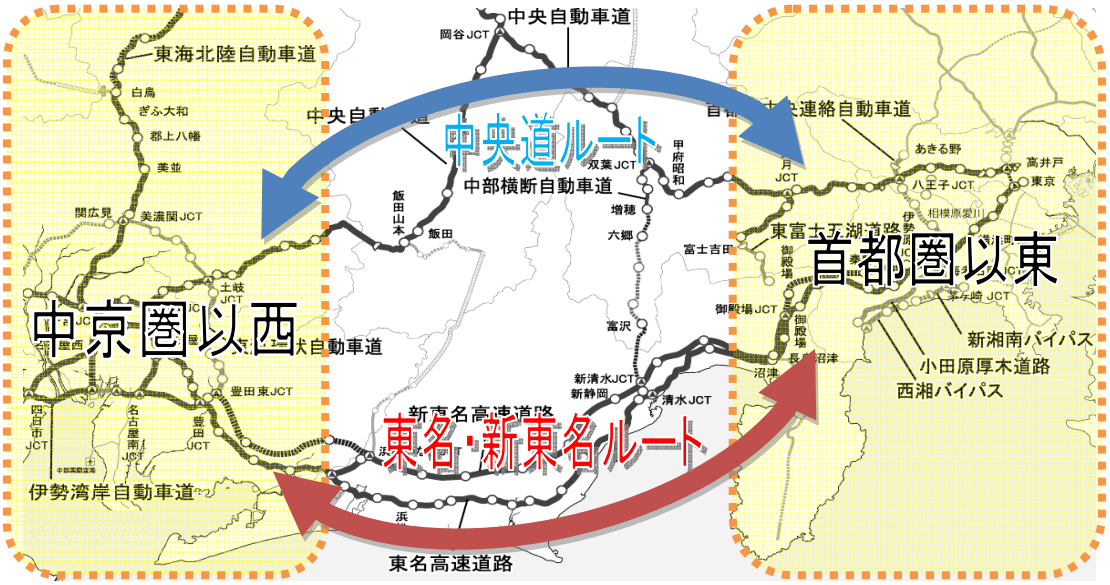
8．大都市圏間の長距離交通の変化

・ 首都圏以東⇔中京圏以西の大都市圏間の長距離交通は、中央道ルートは約１．３千台／日減少し、東名・新東名ルートは約１．８千台／日増加しており、中央道から東名・新東名へ転換の傾向

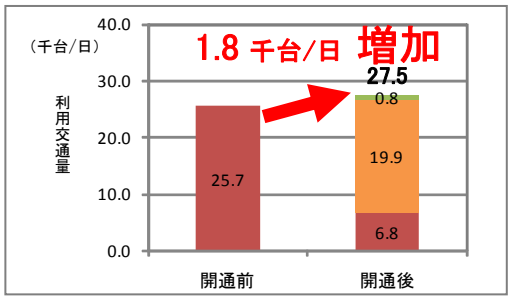
■首都圏以東⇔中京圏以西の大都市圏間の長距離交通の変化

中央道ルート





東名・新東名ルート



-凡例-
- 東名を利用
- 新東名を利用
- 連絡路を利用して、東名・新東名を利用

出典：中日本高速道路㈱　高速道路利用データ
開通前：平成 23 年 9 月 1 日（木）～平成 23 年 9 月 30 日（金）
開通後：平成 24 年 9 月 1 日（土）～平成 24 年 9 月 30 日（日）

TOPICS　新東名と東名の区間交通量 TOP３

新東名と東名の区間交通量に関する TOP３を紹介します。

◆新東名“区間交通量”TOP3

順位	区間名	交通量（千台/日）
1位	新清水 IC～新清水 JCT	44.8
2位	長泉沼津 IC～新富士 IC	44.0
3位	新富士 IC～新清水 IC	43.3

◆東名“区間交通量”減少量TOP3

順位	区間名	交通量（千台/日）
1位	清水 JCT～清水 IC	▲36.3（71.2→34.9）
2位	沼津 IC～富士 IC	▲33.1（74.2→41.1）
3位	富士川ｽﾏｰﾄ IC～清水 JCT	▲32.4（71.2→38.8）

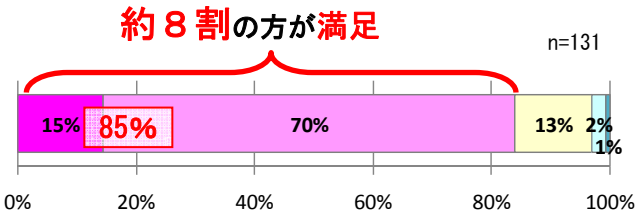
出典：中日本高速道路㈱　交通量計測データ　（御殿場ＪＣＴ～三ヶ日ＪＣＴ間の交通量を集計）
開通前：平成 23 年 4 月 17 日（日）～平成 24 年 4 月 13 日（金）開通後：平成 24 年 4 月 15 日（日）～平成 25 年 4 月 12 日（金）

9．道路利用者の満足度

- 約８割の利用者が、夜間や悪天候時も含めて、安全に安心して運転できると評価
- また、本線の走行や休憩施設について、快適の観点でも、約８割の利用者が満足

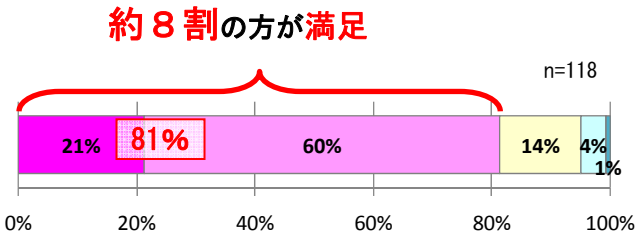
■安全・安心についての満足度

Q. 新東名は、安全に安心して運転できる

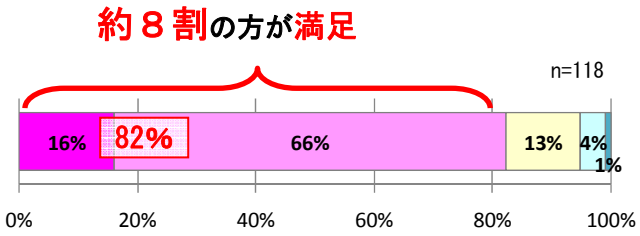


□グラフの凡例
■非常に当てはまる　■当てはまる　□どちらとも言えない
□当てはまらない　■全く当てはまらない

Q. 新東名は、夜間も安心して快適に運転できる

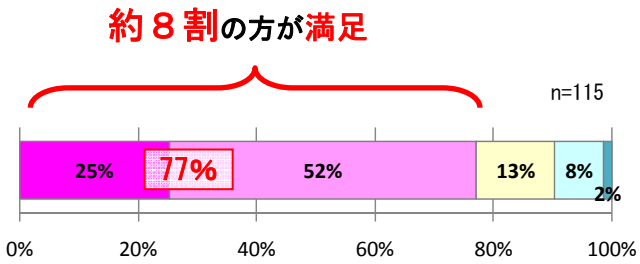


Q. 新東名は、雨天などの悪天候でも安全に運転できる

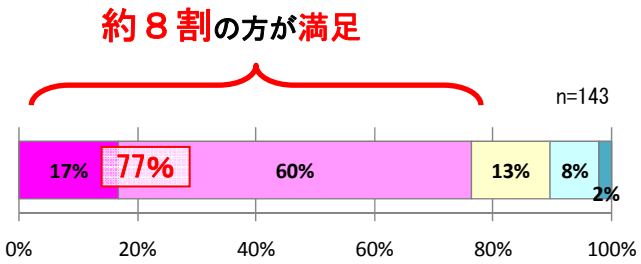


■快適についての満足度

Q. 新東名は、渋滞が少なく快適である



Q. 新東名の SA･PA は、居心地が良く、ゆっくりと休める



新東名ができたことで、新東名だけでなく、東名も快適に走れるようになり、とても便利になりました。

SA･PA の駐車場は、大型車との区別により、ゆっくり過ごせました。道路は、幅が広く、ゆったり感があり、安心でした。

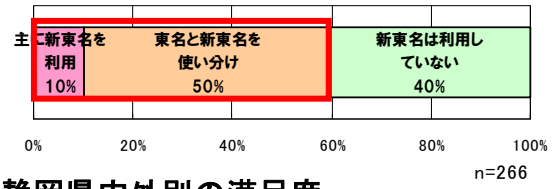
出典：中日本高速道路㈱ 顧客満足度（CS）調査結果（2012）
中日本高速道路㈱ お客さまの声

１０．企業の満足度の向上

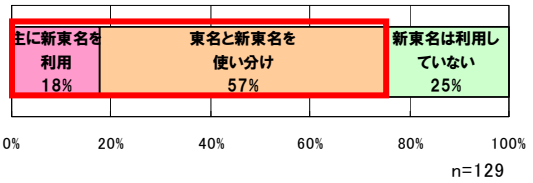
- 製造品等の運搬系企業は約６割が新東名を利用、営業系企業は、約８割が利用し、東名と使い分けがどちらの業態ともに約５割以上
- 県内企業の県内すべての道路に関する満足度は、開通前の調査結果に比べ県内・県外企業とも大きく向上（県内企業：約５割→約８割、県外企業：約６割→７割）

■業態別の新東名の利用について

製造品等の運搬系企業

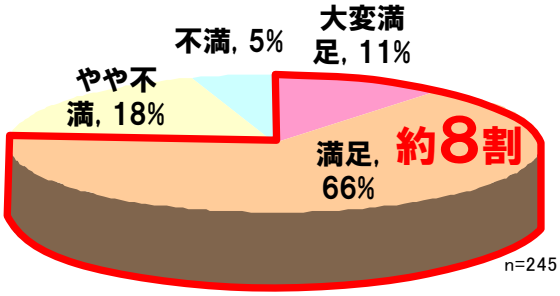


営業系企業

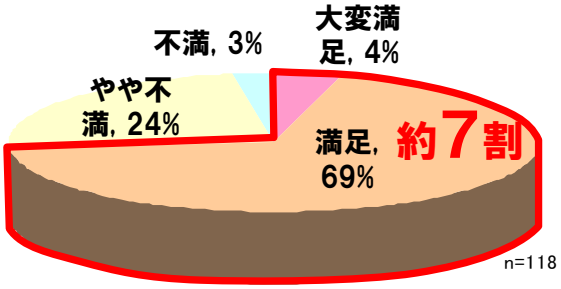


■静岡県内外別の満足度

県内企業

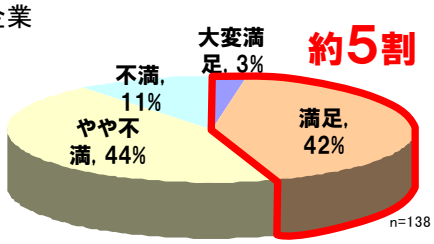


県外企業

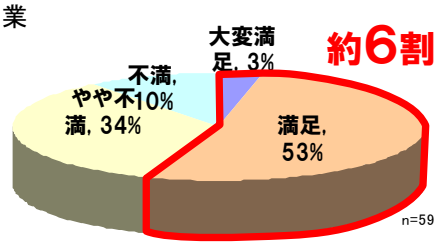


開通前の満足度結果

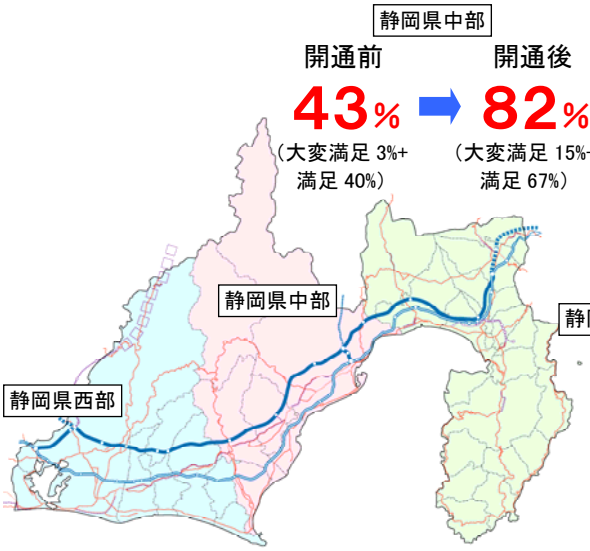
県内企業



県外企業



■県内地域別の満足度



静岡県中部

開通前 43% → 開通後 82%

（大変満足 3%+ 満足 40%）　（大変満足 15%+ 満足 67%）

静岡県西部

開通前 47% → 開通後 69%

（大変満足 5%+ 満足 42%）　（大変満足 8%+ 満足 61%）

静岡県東部

開通前 53% → 開通後 82%

（満足 53%）　（大変満足 10%+ 満足 72%）

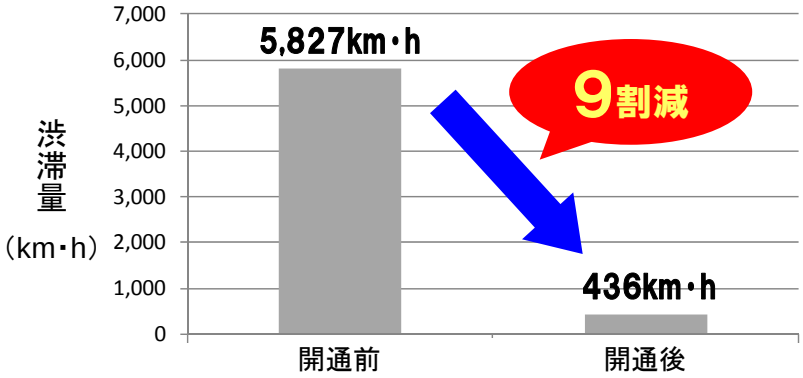
【企業アンケート調査の概要】

国土交通省中部地方整備局が、静岡県, 愛知県, 神奈川県, 東京都, その他の企業（1,235 社）に郵送式のアンケート調査を実施(平成 24 年 10 月中旬～11 月 12 日締め切り)。
回収は, 480 社(県内 286 社、県外 168 社　不明 26 社)、回収率 39%

１１．東名集中工事期間中にダブルネットワーク効果が発現

- 東名集中工事期間中の御殿場ＪＣＴ～三ケ日ＪＣＴ間の渋滞量は、開通前と比較すると、約９割減少
- 平均所要時間は、開通前の約７０分の遅れが、開通後は、約２０分の遅れにとどまり、平均所要時間の遅れは、約７割減少、一方で、新東名の平均所要時間に遅れはなし

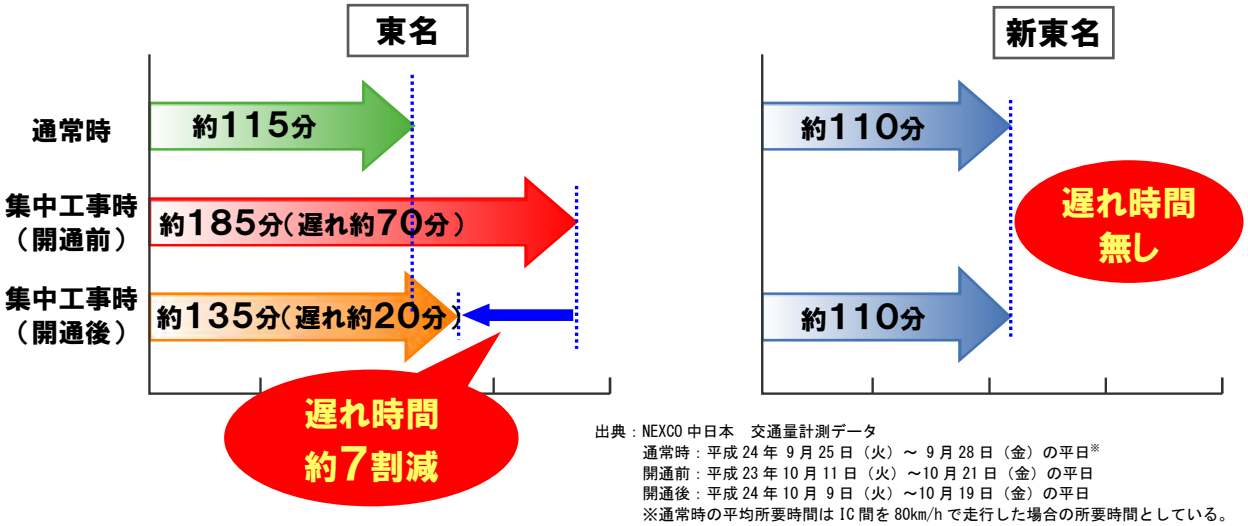
■御殿場ＪＣＴ～三ケ日ＪＣＴの渋滞状況



出典：NEXCO 中日本　交通量計測データ
開通前：平成 23 年 10 月 11 日（火）～10 月 21 日（金）の平日
開通後：平成 24 年 10 月 9 日（火）～10 月 19 日（金）の平日

工事に伴う渋滞量※
※渋滞量：渋滞規模を表す指標（渋滞長×渋滞時間）

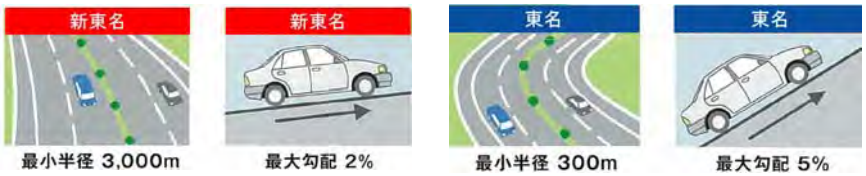
■御殿場ＪＣＴ～三ケ日ＪＣＴの平均所要時間



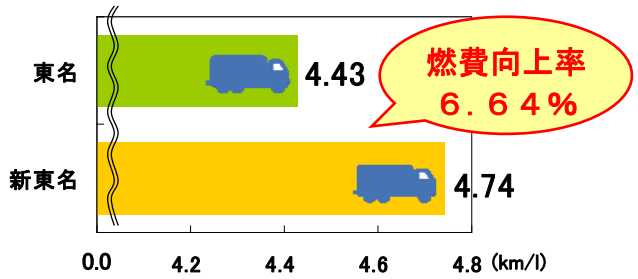
出典：NEXCO 中日本　交通量計測データ
通常時：平成 24 年 9 月 25 日（火）～ 9 月 28 日（金）の平日※
開通前：平成 23 年 10 月 11 日（火）～10 月 21 日（金）の平日
開通後：平成 24 年 10 月 9 日（火）～10 月 19 日（金）の平日
※通常時の平均所要時間は IC 間を 80km/h で走行した場合の所要時間としている。

TOPICS　新東名と東名利用の燃費比較

◆ 新東名は、東名に比べ走行性や安全性に重視した道路線形です。（御殿場ＪＣＴ～三ケ日ＪＣＴ間）



◆ 東京～名古屋間の利用の場合、新東名は、東名に比べ約７％燃費が向上する結果となりました。



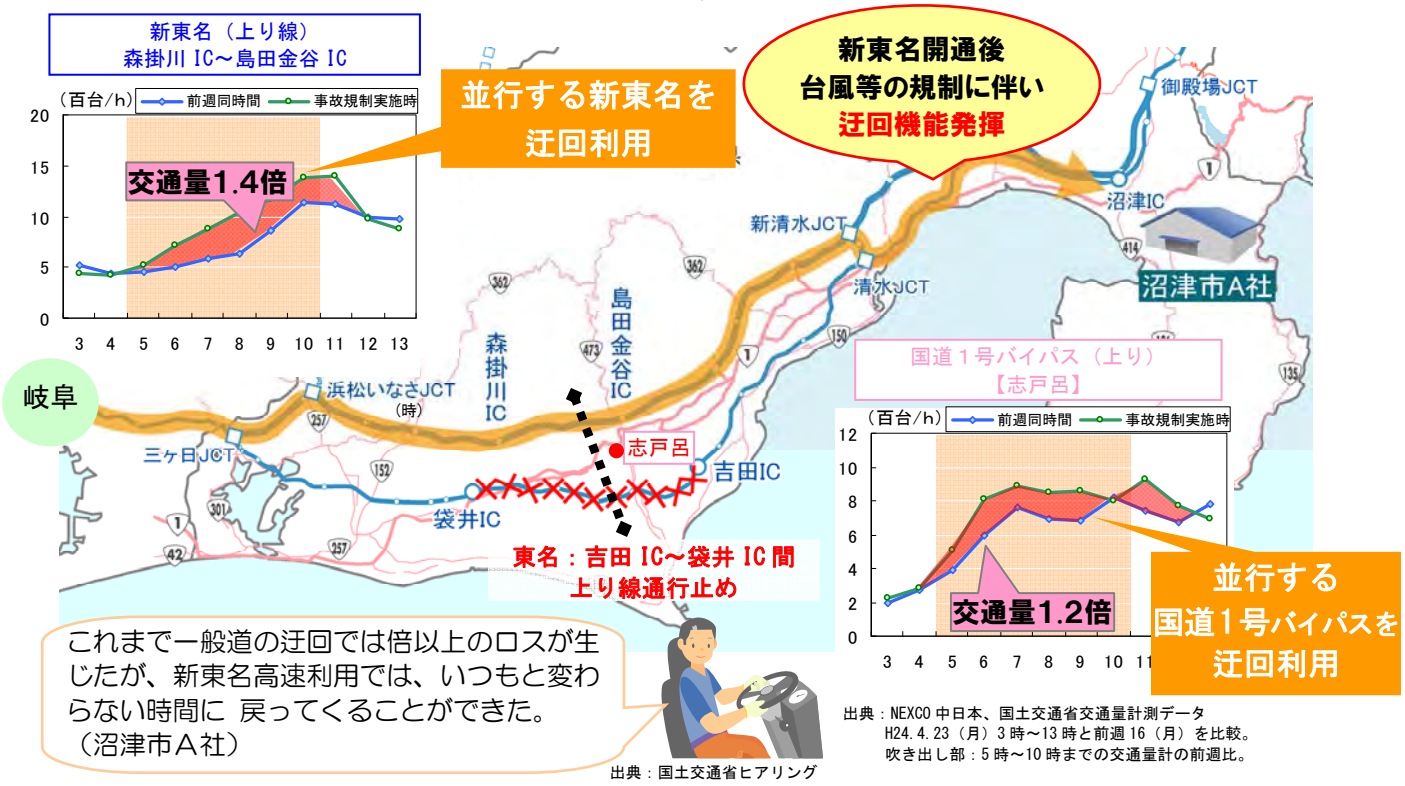
(社)全国物流ネットワーク協会が調査を実施

・調査期間：平成 24 年 3 月及び 4 月
・調査方法：数社のサンプリング調査
・対象車両：東京IC～名古屋IC間の直行便トラック

１２．東名通行止め時におけるダブルネットワーク機能

・ 東名の大型車の事故による通行止めでは、新東名の交通量が前週の１．４倍と、ダブルネットワーク効果が発現

■事故による東名通行止め時の交通量（上り）の変化（前週同時間比較）



出典：NEXCO 中日本、国土交通省交通量計測データ
H24. 4. 23（月）3 時～13 時と前週 16（月）を比較。
吹き出し部：5 時～10 時までの交通量計の前週比。

出典：国土交通省ヒアリング

１３．休憩施設における防災救急機能の発揮（ヘリポートの活用）

・ 新東名高速道路の休憩施設には、防災救急機能の一つとしてヘリポートが整備
・ ドクターヘリが出動し、遠州森町ＰＡの急病人に迅速な医療処置を実施
・ 大規模災害時に備え、休憩施設のヘリポートを活用した防災訓練を実施

■ドクターヘリの離着陸

浜松消防がドクターヘリの出動を要請、遠州森町PA内ヘリポートに着陸。急病人は、迅速かつ適切な医療処置を受けることができました。

ドクターヘリ（遠州森町ＰＡ）聖隷三方原病院提供

・医療上、より早い医師による処置（ファーストタッチ）が重要であり、休憩施設にヘリポートがあることで、実現しやすい環境となった。
・新東名は山間部を通過し、近隣に医療施設がないため、ヘリでの搬送は有効である。

出典：聖隷三方原病院（医局）ヒアリング結果

■ヘリポートを活用した防災訓練の実施

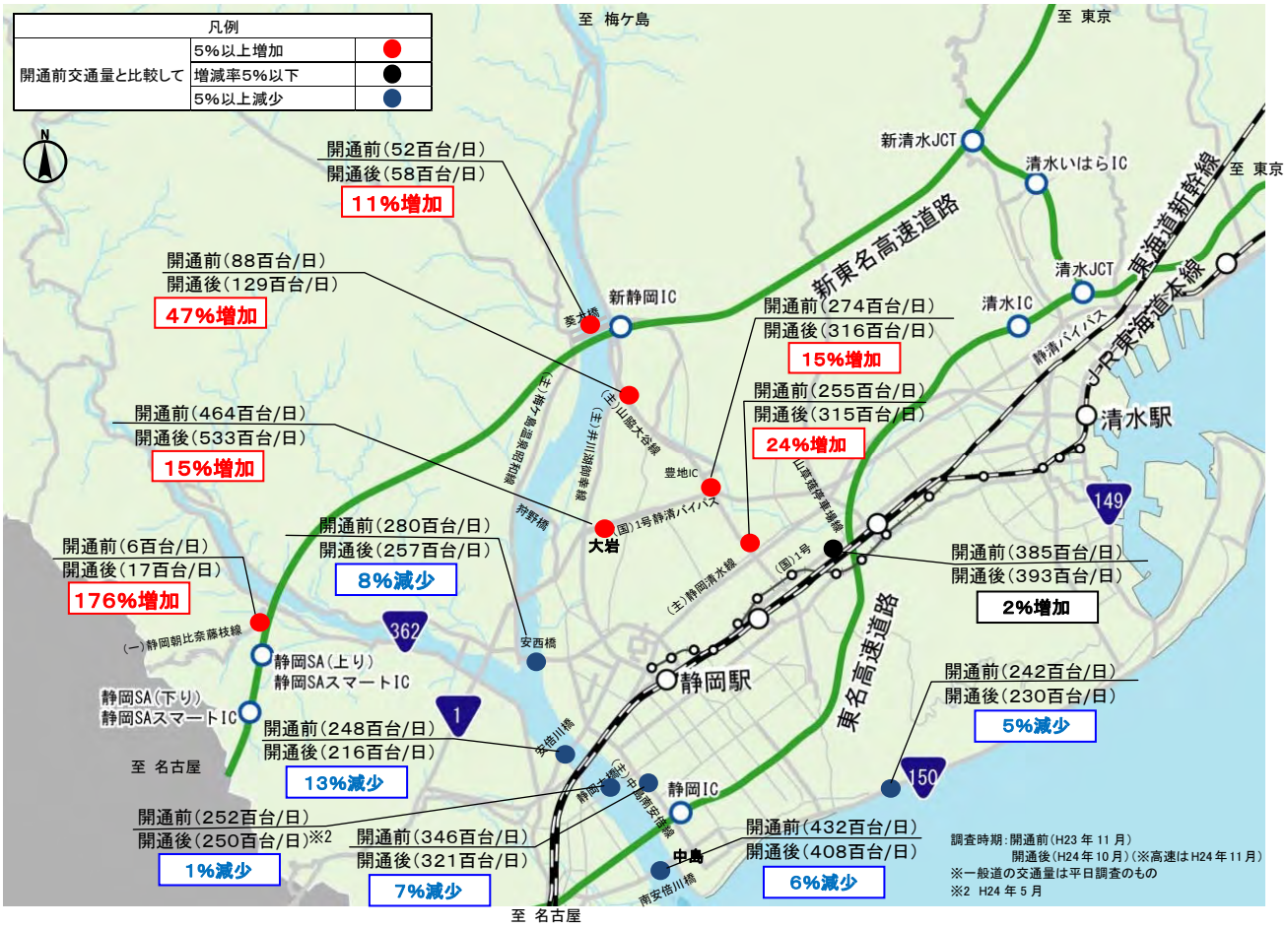
静岡県警航空隊中型ヘリ（駿河湾沼津ＳＡ）

新東名において実施した主な訓練
日時：〈休憩施設〉：訓練の名称
①H25. 2. 7：〈浜松 SA〉：南海トラフ巨大地震対策中部ブロック協議会広域防災訓練
②H25. 2. 5：〈駿河湾沼津 SA 他 5 箇所〉：静岡県航空受援訓練
③H24. 9. 2：〈遠州森町 PA〉：静岡県総合防災訓練
④H24. 5.30：〈浜松 SA〉：静岡県西部危機管理局防災訓練

１４．市街地における交通の流れの変化（静岡市）

・新東名およびアクセス道路の開通により、静岡市街地の交通の流れが大きく変化
・新東名新静岡ＩＣと市街地を結ぶ（主）山脇大谷線の交通量が増加（最大４７％増）
・安倍川渡河断面の一般道路では、交通量が減少傾向（最大１３％減）

■市街地の交通量の変化



■市街地の交通分散イメージ

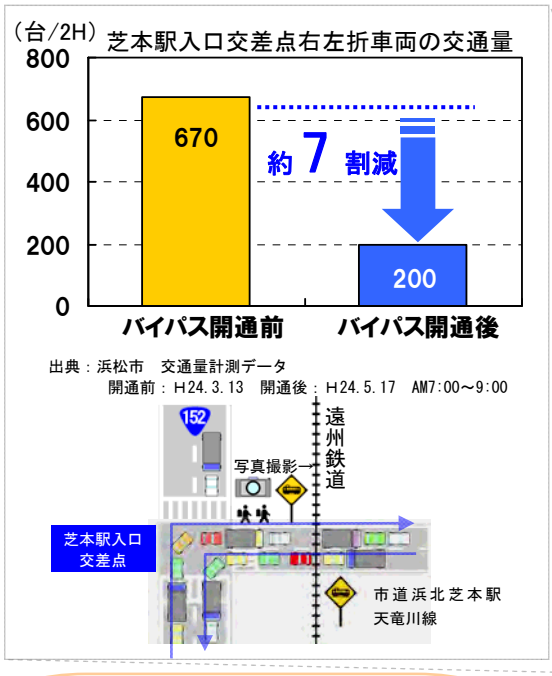
賤機山より静岡市街地方面を望む

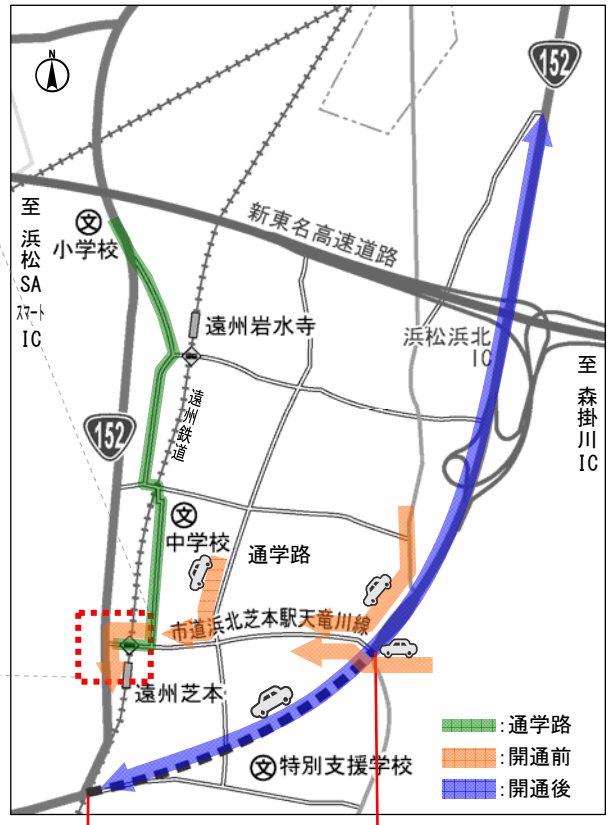
新東名と静清バイパスが（主）山脇大谷線を経由して連結することで、高速道路へのアクセス性向上が図られています。
また、静清バイパスの唐瀬 IC～羽鳥 IC4 車線化により、市街地への交通分散が図られています。

１５．生活道路の安全性向上（浜松市）

- 新東名へのアクセス道路である国道１５２号バイパスの開通により、浜松市内の生活道路を通過する交通が約７割減少
- 地元の交通状況を良く知る方からは「通学路の安全性が向上した」との声

■新東名アクセスへの通過交通の転換





バイパス開通後、交通量が少なくなって、子ども達も安全に通学できる様になったと思っています。
（市道浜北芝本天竜川線　交通誘導員）

国道 152 号バイパス開通
（平成 24 年 3 月 28 日）

生活道路（通学路）

開通前

平成 24 年 3 月早朝撮影

開通後

平成 24 年 7 月早朝撮影

１６．企業活動の変化

- 新東名を利用することで、目的地までの所要時間が大幅に短縮、自社便で２往復が可能となり、輸送コストが約２５％削減
- 新東名 清水連絡路の開通により、南北方向の企業活動においても効果を発現

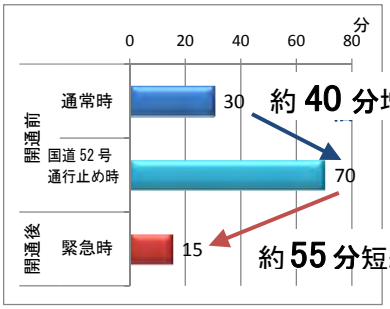
■自社便で２往復が可能となり、輸送コストが約２５％削減

・厚木に緩衝材を輸送している清水工業団地のＡ社は、新東名利用により所要時間が往復１時間削減したため、自社便での２往復が可能となりました。開通前に業者に委託し輸送（１往復）していたころより、コストが約２５％削減しました。

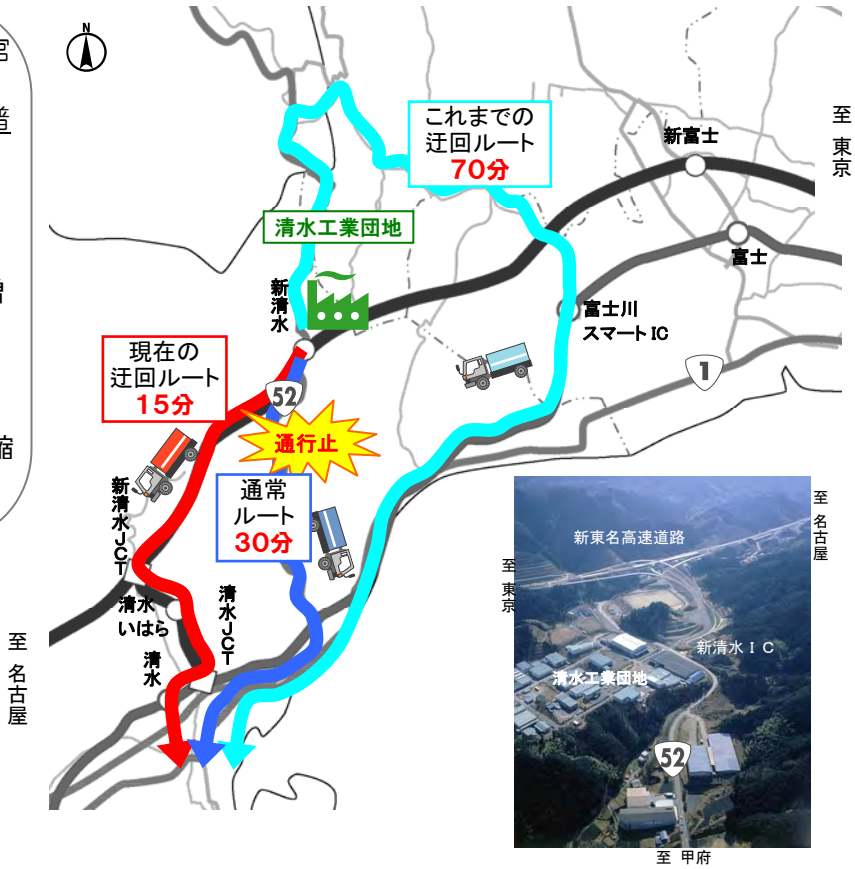
出典：企業ヒアリング

■国道５２号の通行止め時に迂回利用（輸送の確実性）

国道５２号が止まると、富士宮方面から迂回していました。
新東名開通後は、通行止め時も普段通り出荷できています。



出典：企業ヒアリング



１７．医療搬送における所要時間の短縮

- 救急搬送等で新東名が利用され、搬送時間が短縮し、傷病者への負担も軽減
- 清水区宍原（ししはら）地区から静岡県立総合病院への搬送時間は、新東名開通後２８分短縮し、２０分で病院に到着が可能
- 傷病者をより迅速に病院に搬送できるようになり救命の確率が向上

■新東名利用による救急搬送について

新東名を利用することで、一般道路のカーブやアップダウン、段差などを回避でき、振動による傷病者への負担を軽減することができています。

また、病院到着時間が短縮し、より迅速に治療ができます。

出典：静岡市消防局ヒアリング

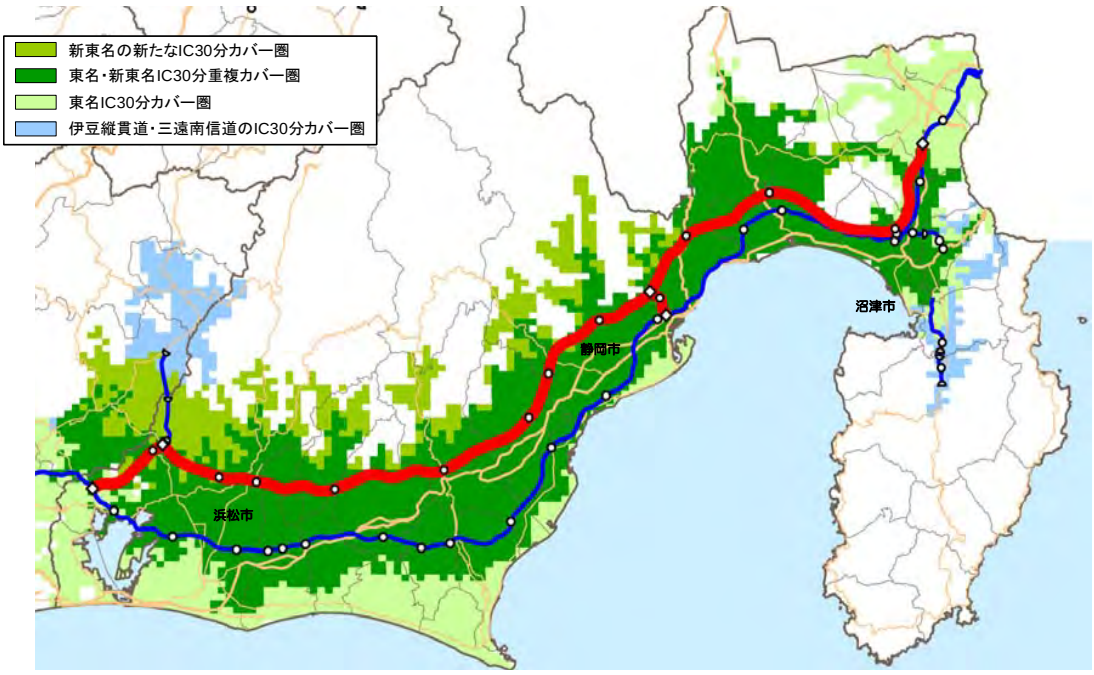
■宍原（ししはら）地区から静岡県立総合病院への搬送の場合

※清水区宍原地区から静岡県立総合病院に搬送した場合
（開通前ルート）国道 52 号⇒国道 1 号静清バイパス
（開通後ルート）国道 52 号⇒新東名高速道路（新清水 IC⇒新静岡 IC）⇒（主）山脇大谷線
開通前所要時間：平成 22 年道路交通センサス混雑時平均旅行速度から算出
開通後所要時間：新東名高速道路、主要地方道山脇大谷線）規制速度から算出
（上記以外の道路）平成 22 年道路交通センサス混雑時平均旅行速度

１８．ＩＣアクセス圏域の拡大

- 新たな高速ＩＣ３０分圏域、また新東名、東名両方からの３０分圏域が拡大

■新東名・東名のＩＣアクセス圏域



出典：民間プローブデータを用いた集計結果（休日 12 時間の平均旅行速度）
東名：平成 23 年 6 月
新東名・伊豆縦貫道・三遠南信道：平成 24 年 6 月

１９．商業施設（ネオパーサ）とスマートＩＣの利用状況

- 商業施設であるネオパーサ（７箇所）の１年間の来場者数は、約３，８００万人
- 商業施設を目的地とする声や、利用時の快適性を感じている声
- 浜松ＳＡスマートＩＣは休日２．５千台/日、静岡ＳＡスマートＩＣは休日１．８千台/日が利用

■高速道路商業施設の利用状況

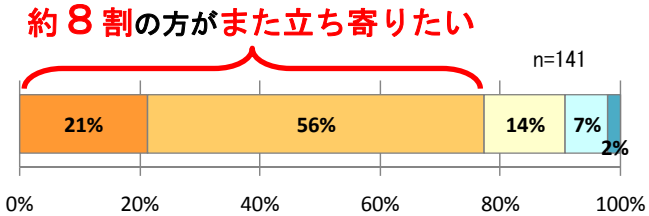
平成 25 年 1 月撮影

平成 25 年 1 月撮影

NEOPASA はとにかく雰囲気が良く楽しいです。毎回行く度に新しい発見があるし、施設自体もどんどん進化して綺麗になっているので、いつも新東名を走るのが楽しみです。

■高速道路商業施設へのリピート志向

Q. 新東名には、また立ち寄りたくなる SA･PA がある。

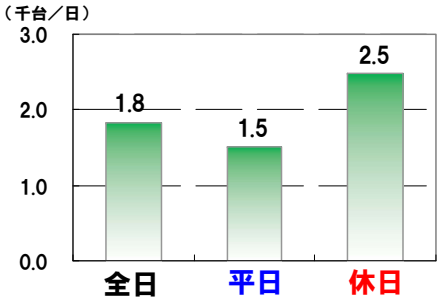


□グラフの凡例
■非常に当てはまる　■当てはまる　□どちらとも言えない
□当てはまらない　■全く当てはまらない

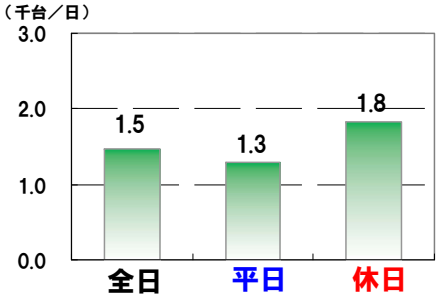
出典：中日本高速道路㈱ 顧客満足度（CS）調査結果（2012）
来場者数は平成 24 年 4 月 14 日（土）～平成 25 年 4 月 14 日（日）までの、各 NEOPASA 出入口での観測結果

■スマートＩＣの利用状況

浜松SAスマートIC出入交通量



静岡SAスマートIC出入交通量



出典：NEXCO中日本　交通量計測データ
平成24年4月15日（日）～平成25年4月12日（金）

浜松SA付近の住民の声

・高速道路まで３０分程度かかっていたが、新東名のスマートＩＣが出来たことで、１０分程度で利用できるようになり大変便利になった。また、高速道路の利用頻度も以前より増えた。

静岡SA付近の住民の声

・SA内のラーメン店が２４時間営業ということもあり、利用している。
・ＳＡ内にドッグランがあるので、散歩時に利用している。
・街が便利になっていることを実感している。ＳＡがなければこんなに便利だとは体感できなかっただろう。

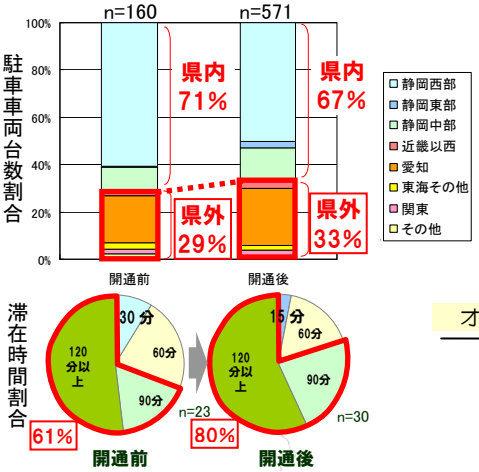
出典：浜松市・静岡市ヒアリング

２０．観光振興への寄与

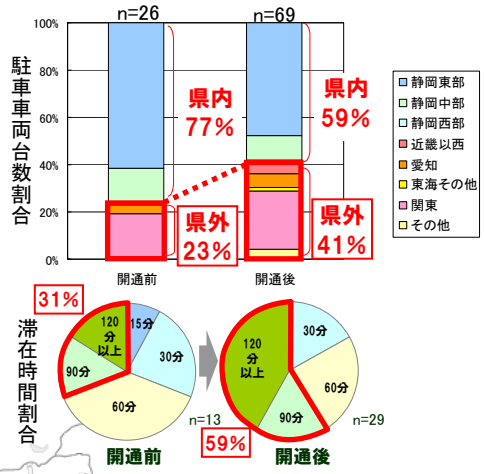
- 新東名沿線の観光施設（浜松市・富士宮市）の駐車場利用は県外車両が増加
- 観光施設（浜松市・富士宮市）の利用者アンケート結果では、昨年に比べ滞在が長時間化の傾向
- オクシズ（静岡市）の観光施設では、新東名の開通により高速道路のＩＣが近くなり、利用者が増加傾向（７％増）
- 主な観光施設の静岡市外からの観光客の６割以上が新東名を利用

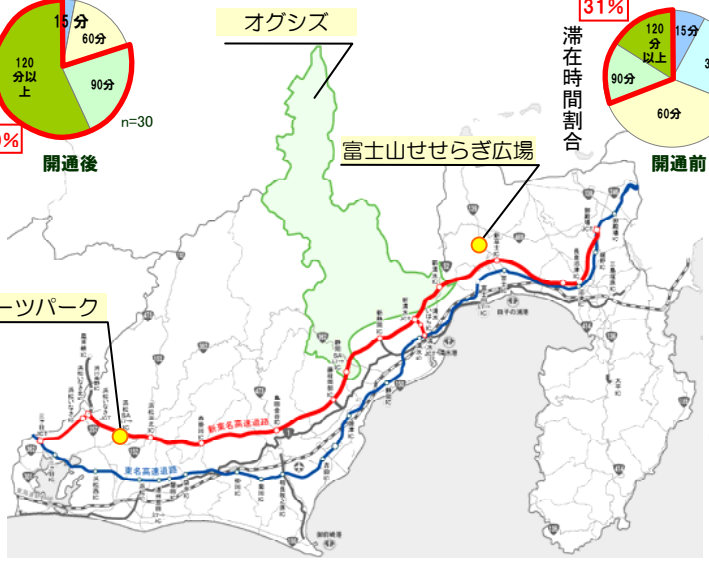
■新東名沿線の観光施設の駐車車両と滞在時間の変化

はままつフルーツパーク（浜松市）



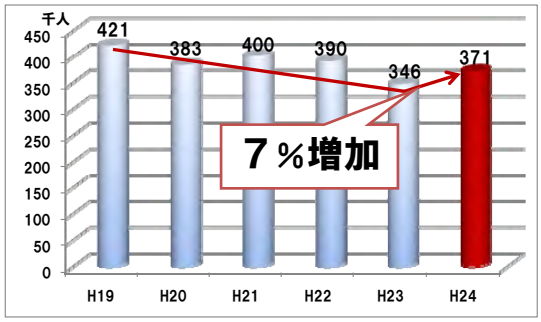
富士山せせらぎ広場（富士宮市）

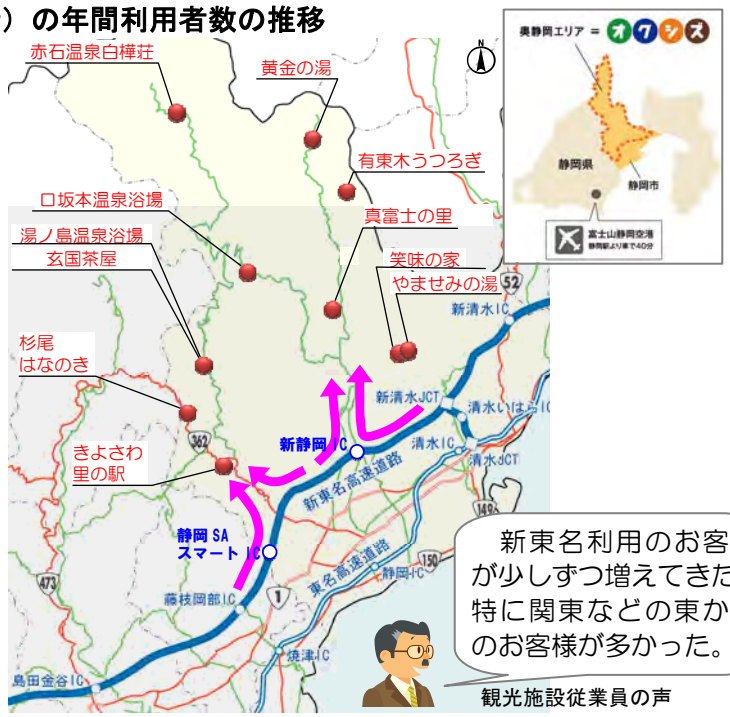




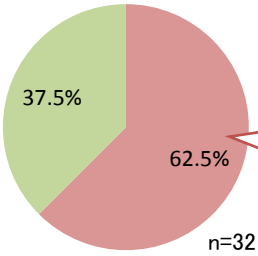
出典：国土交通省 中部地方整備局・浜松市
車籍地・利用者アンケート調査結果
開通前：平成 23 年 11 月 20 日（日）アンケート配布・車籍地調査（14 時台）
開通後：平成 24 年 9 月 23 日（日）アンケート配布、10 月 7 日（日）アンケート配布・車籍地調査（14 時台）

■オクシズ（静岡市）の主要施設（11 箇所）の年間利用者数の推移





■静岡市外からの来訪者の新東名利用状況



市外からの観光客の６割以上が、新東名高速道路を利用

出典：観光施設来訪者アンケート

新東名利用のお客様が少しずつ増えてきた。特に関東などの東からのお客様が多かった。

観光施設従業員の声

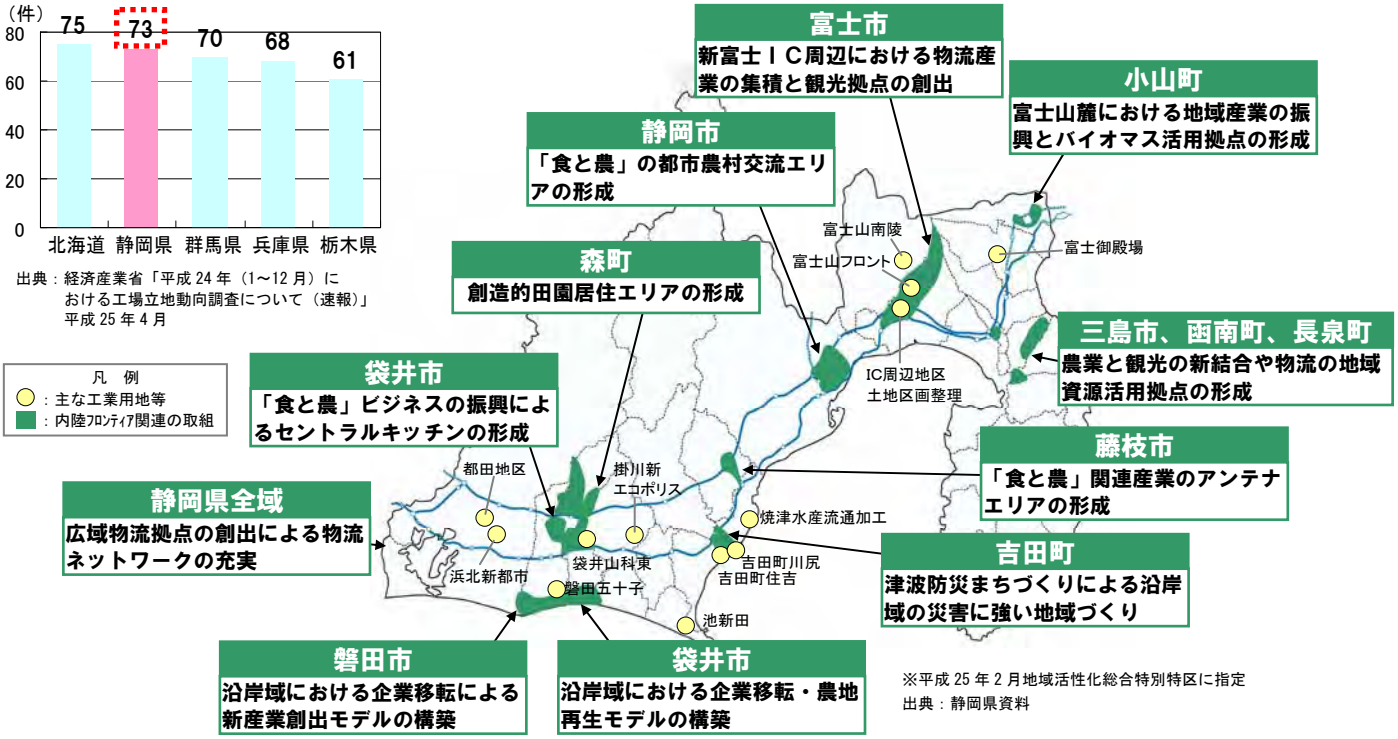
２１．地域経済の活性化に向けた動き

- 静岡県の工場立地件数は昨年（平成２４年）１年間に７３件、全国で２位
- 新東名沿線内陸部の開発や防災の観点を盛り込んだ「内陸のフロンティア」を拓く取組※が始動

■県別立地件数全国トップ５（平成 24 年）

出典：経済産業省「平成 24 年（1～12 月）における工場立地動向調査について（速報）」平成 25 年 4 月

■内陸フロンティア構想を先導する取組等

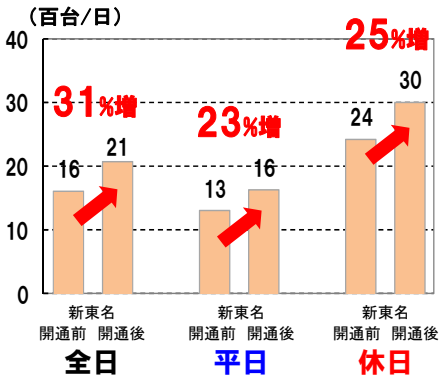


※平成 25 年 2 月地域活性化総合特別特区に指定
出典：静岡県資料

２２．新東名とネットワークを形成する三遠南信自動車道の整備

- 新東名・三遠南信自動車道の開通により日帰り観光圏が拡大、鳳来峡ＩＣからの９０分圏交流人口は、愛知県内人口の約９割、静岡県内人口の約７割

■三遠南信自動車道の交通量



出典：国土交通省データ
開通前：平成 24 年 3 月 5 日（月）～4 月 13 日（金）
開通後：平成 24 年 4 月 15 日（日）～平成 25 年 4 月 12 日（金）

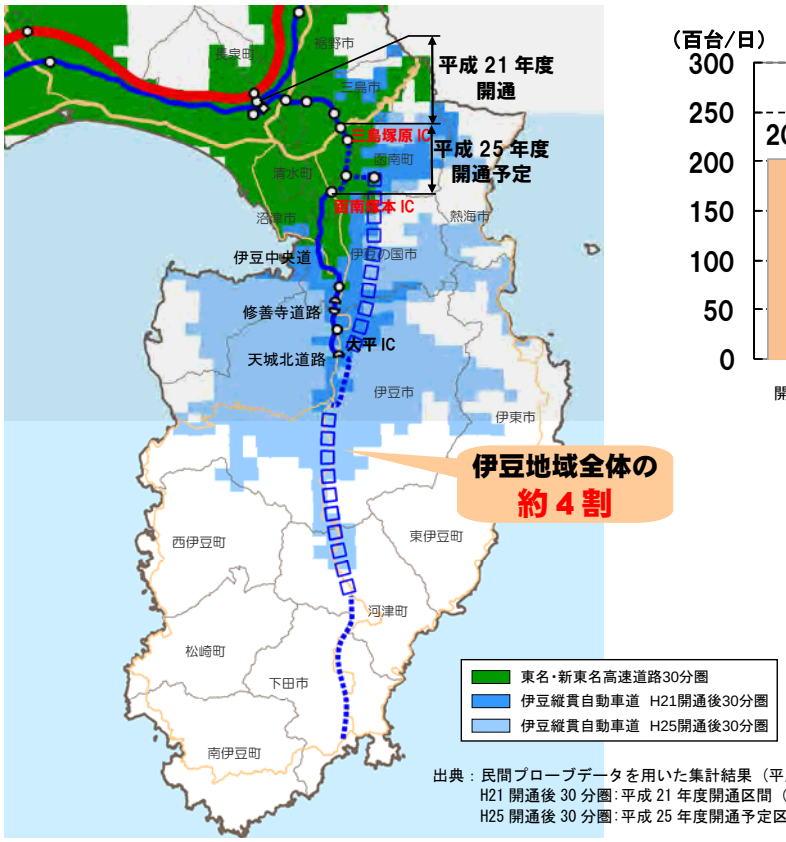
■三遠南信自動車道の鳳来峡ＩＣの９０分圏域の拡大

出典：民間プローブデータを用いた集計結果（休日 12 時間の平均旅行速度）
開通前：平成 23 年 6 月
開通後：平成 24 年 6 月

２３．新東名とネットワークを形成する伊豆縦貫自動車道の整備

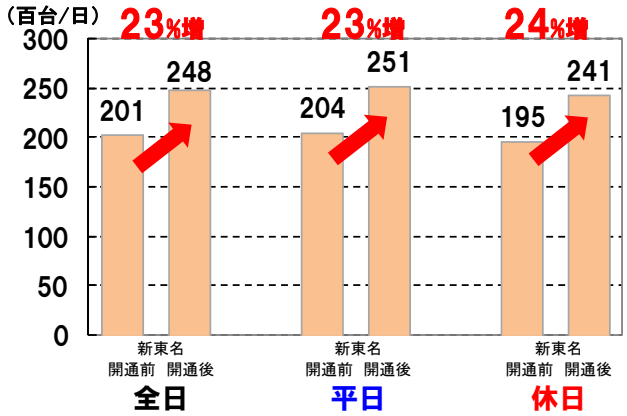
・ 平成２５年度に三島塚原ＩＣ～函南塚本ＩＣ間が開通（延伸）すると、ＩＣ３０分圏域は約２倍に拡大、伊豆地域全体の約４割の地域がＩＣから３０分以内で到達

■伊豆縦貫自動車道によるＩＣ３０分圏域の変化



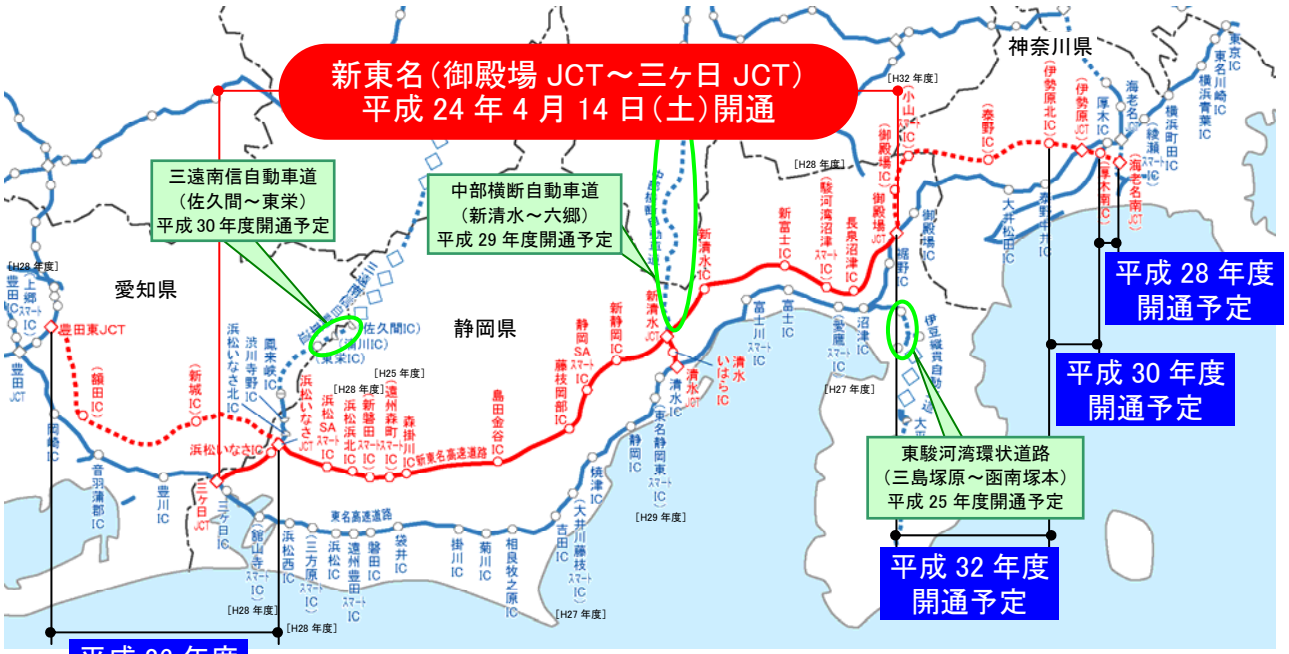
出典：民間プローブデータを用いた集計結果（平成 24 年 6 月　休日 12 時間の平均旅行速度）
H21 開通後 30 分圏：平成 21 年度開通区間（三島塚原 IC）からの 30 分圏域
H25 開通後 30 分圏：平成 25 年度開通予定区間を含め伊豆中央道+修善寺道路+天城北道路（太平 IC）からの 30 分圏

■伊豆縦貫自動車道の交通量



出典：国土交通省データ
開通前：平成 23 年 4 月 17 日（日）～平成 24 年 4 月 13 日（金）
開通後：平成 24 年 4 月 15 日（日）～平成 25 年 4 月 12 日（金）

２４．今後の開通予定



（ ）は仮称　［ ］は完成年度予定

新東名高速道路（御殿場JCT～三ヶ日JCT）のホームページをご覧ください。

アドレス：http://www.shintomei-shizuoka.net

新東名（御殿場JCT～三ヶ日JCT）開通
つなぐ・ひろがる しずおかの道

中部地方整備局や静岡国道事務所のホームページにある上記のバナーからもアクセスできます。

表紙・裏表紙写真：NEXCO 中日本提供

［平成 25 年 6 月］